

2019 年総選挙を控えた南アフリカの政治

著者	牧野 久美子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
巻	57
ページ	47-51
発行年	2019-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00050853



2019 年総選挙を控えた南アフリカの政治情勢

South Africa Heading for the 2019 General Elections

牧野 久美子

MAKINO, Kumiko

はじめに

今年 2019 年は多くのアフリカ諸国で重要な選挙が予定されているが¹、南アフリカもそのひとつである。南アフリカで今年実施されるのは、国会議員選挙と州議会議員選挙（いずれも任期 5 年間）で、投票日は 5 月 8 日の予定である。いずれの選挙も、選挙方式は拘束名簿式比例代表制で、有権者は議員個人ではなく政党に投票する。大統領は直接選挙ではなく、選挙後最初の国会において国会議員のなかから選ばれる仕組みで、通例は与党党首が大統領に就任する。以下、本稿では総選挙を控えた南アフリカの主要政党のマニフェスト（選挙公約）の内容と、世論調査による各党の支持率の動向を中心に、2019 年総選挙を控えた南アフリカの政治情勢について報告する。

アフリカ民族会議（ANC）のマニフェスト発表と選挙戦の開始

2019 年 1 月 12 日、現与党のアフリカ民族会議（African National Congress: ANC）は他党に先駆けて選挙マニフェストを発表した。マニフェストは「南アフリカを共に成長させよう（Let's Grow South Africa Together）」と題され、雇用創出のための経済変革を前面に押し出す内容となっている [ANC 2019]。全 66 ページにわたるマニフェストのうち、「人びとのための経済変革」が 19 ページ、「社会変革の前進」が 15 ページを占めており、この二つが最重要項目という位置づけといえ

¹ 今年実施され、あるいは実施が予定されているアフリカ諸国の選挙日程については以下を参照。“2019 African Election Calendar,” Electoral Institute for Sustainable Democracy in Africa (EISA) (<https://www.eisa.org.za/calendar.php>, 2019 年 3 月 10 日アクセス)。

る。残りの項目は、「安全なコミュニティを築く」、「腐敗と闘い高潔さを促進する」、「ガバナンスと公的制度を強化する」、「国民統合を築き多様性を大切にする」、「南アフリカ、アフリカ、世界」となっている。

マニフェストの具体的な内容としては、「経済変革」の項目では、1兆2000億ランドの投資増加による年間27万5000人の雇用創出、「第四次産業革命」を見据えた産業政策、労働者による持ち株その他の形での企業所有の推進、補償なしでの土地収用を含む「持続可能でラディカルな土地改革」、中小企業振興やタウンシップ（旧黒人居住区）や村落部での起業支援などがうたわれている。また「社会変革」の項目では、教育・職業訓練機会の強化による「スキル革命」、国民健康保険の実現、交通インフラの改善などが言及されている。腐敗との闘いについては、マニフェストでは後半でわずかなページしか割かれていないが、マニフェスト・ローンチの際のANC党首で現大統領のシジル・ラマポサ（Cyril Ramaphosa）のスピーチでは、具体的なマニフェストの内容に入る前に、「国家捕獲（state capture）」と呼ばれる公的資源の大規模不正使用問題を率直に認めて、過ちを正す覚悟が再三強調された。

マニフェスト・ローンチの会場に選ばれたのは、ダーバンのモーゼス・マビダ・スタジアムであった。事実上の選挙戦開始となるこの重要なイベントの場所にダーバンを選んだことは意味深い。ダーバンのあるクワズールー・ナタール（KwaZulu-Natal: KZN）州は、国家捕獲への批判を受け、2018年2月に任期途中で辞任に追い込まれたジェイコブ・ズマ（Jacob Zuma）前大統領のお膝元である。KZN州のANC支部は2017年12月の党首選で、ラマポサではなく、ズマが後継に推していたンコサザナ・ドラミニ＝ズマ（Nkosazana Dlamini-Zuma）を支持していた。ラマポサは僅差で党首選に勝利したものの、「Top 6」と呼ばれるANCの最高幹部の半数はズマ派の人物で占められており、ラマポサの党内基盤は強力とはいえない。選挙戦を効果的に戦うためには、まずは党内の足元を固めることが先決であることから、あえて「アウェイ」の場所で——報道によれば、ズマが壇上に上がった際には、ラマポサよりもはるかに大きな歓声が上がったという²——ラマポサは選挙戦をスタートして党内の一致団結を演出し、派閥主義をけん制したのである。

ラマポサはANC党員に向けては、ズマやその支持者に配慮し、ズマとも良好な関係にあることをアピールするが、他方でANCの外部に向けてはズマ時代の国家捕獲を徹底追及する姿勢を強調するというように、今後の選挙戦において聴衆にあわせて発言を使い分けることになるだろう。しかし、1月下旬の世界経済フォーラム（ダボス会議）において、ラマポサがズマ政権時代のことを「無駄にされた9年間」と言及したと報じられたのに対して、ズマがツイッターを通じて反論し、両者のあいだの緊張関係が改めて表面化するなど、発言を党内外で使い分けることには、当然ながら困難と矛盾が伴う³。現在、レイモンド・ゾンド（Raymond Zondo）判事を議長とする国家捕獲調査委員会（Commission of Inquiry into State Capture）に加え、公共投資法人（Public Invest Corporation）による不正融資その他の疑惑に関する調査委員会も活動しており、連日のように公

² “WATCH: Crowd at ANC manifesto launch goes crazy for Zuma,” *The Citizen*, 12 January 2019

(<https://citizen.co.za/news/south-africa/politics/2062149/watch-crowd-at-anc-manifesto-launch-goes-crazy-for-zuma/>, 2019年3月11日アクセス)。

³ “Jacob Zuma hits back at Cyril Ramaphosa for ‘nine wasted years’ jibe,” *TimesLIVE*, 29 January 2019

(<https://www.timeslive.co.za/politics/2019-01-29-jacob-zuma-hits-back-at-cyril-ramaphosa-for-nine-wasted-years-jibe/>, 2019年3月11日アクセス)。



的部門の幹部や ANC の有力政治家が腐敗の当事者として名指しされている。そのような状況で、国家捕獲をズマ時代の過去の出来事とみなして自らは一線を画そうとするラマポサの姿勢が、有権者の目にどれほど説得的に映るかは疑わしい。ANC の候補者リストには腐敗が指摘された政治家が多数含まれているうえに、ラマポサ自身も、刑務所運營業務などの契約受注をめぐる大規模な贈賄行為が明るみになっている企業ボササ（Bosasa、現在は African Global Operations と改名）から、息子名義の口座を通じて ANC 党首選の運動資金 50 万ランドを受け取ったことを認めている。

主要野党のマニフェスト

現在国政で野党第 1 党である民主同盟（Democratic Alliance: DA）は、1994 年の民主化後の総選挙で、毎回得票率を伸ばしてきた唯一の政党である。もともと「白人政党」のイメージが強い DA であるが、黒人として初めてムシ・マイマネ（Mmusi Maimane）が 2015 年に DA 党首となった。DA はマイマネのもとで黒人有権者の取り込みをはかっているが、党内において「黒人の経済力強化（Black Economic Empowerment: BEE）」政策と呼ばれる黒人優遇策をめぐる路線対立があることがたびたび報じられてきた⁴。また、解放運動由来の政党であるパンアフリカニスト会議（Pan Africanist Congress）から独立民主主義者党（Independent Democrats）、さらに DA へと数々の政党を渡り歩いてきたベテラン政治家のパトリシア・デ・リル（Patricia de Lille）前ケープタウン市長ら、有力政治家の離党も相次ぎ、最近では党内の求心力の低下がみられる。2月23日にジョハネスバーグ市内のランド・スタジアムで発表された DA の「変化のためのマニフェスト（The Manifesto for Change）」では、「ANC が実施している形での BEE 政策」は「政治的なコネクションのあるエリートを富ませるだけのもの」と批判する一方で、BEE 政策の撤廃ではなく改革を提案するものとなった [DA2019]。このような BEE 政策の事実上の容認にみられるように、今回のマニフェストでは「リベラル・コア」とも呼ばれる DA 内の経済右派の主張の後退が目立ち、ANC との政策上の違いは以前ほど小さくなったといえる。DA の選挙戦略の中心は、独自の政策をアピールするというよりは、ANC の失政と腐敗を批判し、DA が与党となっている西ケープ州や大都市自治体（ケープタウン市、ジョハネスバーグ市など）のグッド・ガバナンスをアピールして、より多くの州で、また究極的には国政レベルでの政権交代の実現を有権者に促すことにある。

現在国政で第 3 党である経済的自由戦士（Economic Freedom Fighters: EFF）は、2月2日に「我々の土地と仕事を今すぐ！（Our Land and Jobs Now!）」と題するマニフェストをプレトリア郊外のソシャングヴェにあるジャイアント・スタジアムで発表した。タイトルのとおり、EFF のマニフェストは土地問題と失業問題の早急な解決の必要性を強調するものとなっている。土地改革に関しては無補償での土地収用と土地の再分配、経済政策については「鉱山、銀行、その他の戦略的セクター」の無補償での国有化を主張している。また教育や医療、住宅の無償提供などもマニフェ

⁴ 例として、“DA strife over BEE splits senior leadership,” *TimesLIVE*, 11 August 2018 (<https://www.timeslive.co.za/sunday-times/news/2018-08-11-da-strife-over-bee-splits-senior-leadership/>, 2019年3月14日アクセス)。



ストに盛り込まれた [EFF 2019]。EFF のマニフェストは、ANC や DA と比べて大部のものであり（全 170 ページ）、「EFF 政府は（“EFF Government will...”）」という表現を多用し、EFF が政権をとった場合に実施するとする詳細な政策リストを提示するものとなっている。実際にこれらの政策の実施責任を負う「EFF 政府」が実現する見込みはないが、EFF がいわゆる「要党」として議席数以上の政治的影響力をもつ可能性があり、その場合、連立や連携相手となる他政党に対して、マニフェストに掲げた政策の一部の実現を要求することになるであろう。具体的には、国政レベルでは、補償なしでの土地収用を可能にするための憲法改正が議題に上っているが、憲法改正には国会議員の 3 分の 2 以上の賛成が必要であるため、憲法改正を通すために ANC が EFF の協力を必要とする可能性が高い。また、次節で述べるようにハウテン州では ANC、DA とともに過半数議席をとれない可能性がある。その場合は連立政権やイシューごとの政党間の連携が模索されることとなり、第三党となる可能性の高い EFF の発言力が増すであろう。なお、EFF はズマ政権の腐敗を厳しく追及した経緯があり、マニフェストにも「腐敗のない政府」の実現を掲げているが、昨年浮上した VBS 銀行のスキandalでは、EFF 党首のジュリアス・マレマ (Julius Malema) や副党首のフロイド・シヴァンプ (Floyd Shivambu) の親族を通じて、資金の一部が不正に EFF に流れた疑惑がもたれている [Van Wyk 2018]。EFF は、黒人有権者（とくに若年層）の支持獲得を狙って、白人やインド系人に対する排他的な言動を意図的に使用するポピュリスト的な戦略を多用している。また最近では、EFF 指導層によるジャーナリストへの攻撃も目立ち⁵、EFF に批判的な報道を威圧的に抑制しようとする姿勢がみられる。

主要政党の支持率の動向

国政レベルでは、ラマポサ大統領が率いる現与党 ANC の勝利が確実視されているものの、前回と比べて議席数がどのように変化するのか、DA や EFF をはじめとする野党がどの程度の議席を獲得できるのかが注目される。

2014 年の総選挙における主要政党の得票は、ANC が 62.15%、DA が 22.23%、EFF が 6.35%、投票率は 73.48%であった⁶。それに対して、市場調査会社 Ipsos が 2018 年 11 月に実施した世論調査によれば、登録有権者 (registered voters) の 61%が ANC に投票すると答え、次いで DA が 14%、EFF が 9%という結果であった [Ipsos 2019]。また、人種関係研究所 (Institute of Race Relations: IRR) が定期的に実施している世論調査では、2018 年 12 月の調査時点では主要政党の支持率は ANC が 56%、DA が 18%、EFF が 11%、2019 年 2 月の調査時点では ANC が 54.7%、DA が 21.8%、EFF が

⁵ 最近の一例として、EFF 党首のマレマが 3 月上旬に、ベテラン女性ジャーナリストのカリマ・ブラウン (Karima Brown) のプライベートな電話番号を自身のツイッター・アカウントで公開し、結果としてブラウンが EFF 支持者とみられる人びとからレイプや殺人の脅しを含む多数の脅迫を受けるという事件があった。ブラウンは本件に関して警察に告発を行うとともに、選挙委員会に不服を申し立てたと報じられている。“It’s official: Brown to lay complaints with cops, IEC against EFF,” *The Citizen*, 6 March 2019 (<https://citizen.co.za/news/south-africa/news-update/2096712/its-official-brown-to-lay-complaints-with-cops-iec-against-eff/>, 2019 年 3 月 13 日アクセス)。

⁶ 過去の選挙結果については、南アフリカ選挙委員会 (Electoral Commission of South Africa) のウェブサイトを参照 (<http://www.elections.org.za/>, 2019 年 3 月 27 日アクセス)。



12.2%であった [IRR 2018; 2019]。IRR は、2019年2月の調査をもとに、投票率を71%と仮定した場合の得票率は、ANCが55%、DAが24%、EFFが11%となると推計している [IRR 2019]。

これらの数字は調査時点でのスナップショットであり、実際の選挙結果を正確に予測するものではないが、少なくとも、25年間続いてきたANC政権が今後も継続する可能性はきわめて高いということはいえる。2016年の地方選挙ではANCの得票は全国で50%台前半にとどまっていた。これはズマ前大統領時代の国家捕獲や公共サービス提供の失敗、経済停滞と高失業率の継続といった要因により、ANCに対する有権者の不満がこれまでになく高まったためと考えられる。しかし、政党への信頼に関する Ipsos の調査によれば、2018年2月のズマの大統領辞任・ラマポサの大統領就任以降、ANCへの信頼が大きく回復したのに対して、DAへの信頼が下がってきており [Ipsos 2019]、ANCの優位継続はDA党内の混乱という敵失にも助けられているといえる。

州レベルでは、ジョハネスバーグとプレトリアを擁するハウテン州の帰趨が最も注目される。IRRの世論調査によれば、2019年2月の調査時点で、ハウテン州で過半数の支持を集めている政党はなく、主要政党の支持率はANCが41.6%、DAが32.4%、EFFが18.2%であり、投票率を69.5%とした場合の推計得票率は、ANCが47%、DAが36%、EFFが11%であった [IRR 2019]。過半数議席を獲得する政党がなかった場合、第三党で「要党」となる可能性が高いEFFの政策決定への影響力が増すことが予想される。

(2019年3月27日脱稿)

参考文献

- ANC (African National Congress) 2019. "Let's Grow South Africa Together: 2019 Election Manifesto," Vote ANC website (https://voteanc.org.za/uploads/ANC_Manifesto_2019.pdf, 2019年3月11日アクセス).
- DA (Democratic Alliance) 2019. "The Manifesto for Change: One South Africa for All," DA website (<https://cdn.da.org.za/wp-content/uploads/2019/02/22160849/A4-Manifesto-Booklet-Digital.pdf>, 2019年3月11日アクセス).
- EFF (Economic Freedom Fighters) 2019. "2019 Election Manifesto: Our Land and Jobs Now – People's Manifesto and a Plan of Action," EFF website (<http://www.fffonline.org/Manifest>, 2019年3月11日アクセス).
- Ipsos 2019. "Ipsos Poll: ANC at 61%," Ipsos website, 4 January 2019. (<https://www.ipsos.com/en-za/ipsos-poll-anc-61>, 2019年3月11日アクセス).
- IRR (South African Institute of Race Relations) 2018. "December IRR Snap Poll," *The Criterion Report* 1(3) (<https://irr.org.za/reports/criterion-report/files/thecriterionreport-v1n3-december2018.pdf>, 2019年3月11日アクセス).
- 2019. "IRR February 2019 Election Poll," *The Criterion Report* 2(1) (<https://irr.org.za/reports/criterion-report/files/thecriterionreportv2n1-february2019.pdf>, 2019年3月10日アクセス).
- Van Wyk, Pauli 2018. "VBS bank heist: EFF's family ties and moneyed connections," *Daily Maverick*, 21 November 2018. (<https://www.dailymaverick.co.za/article/2018-11-21-vbs-bank-heist-ffs-family-ties-and-moneyed-connections/>, 2019年3月11日アクセス).

(まきの・くみこ／アジア経済研究所)

